

米国環境保護庁
ワシントン D.C.20460

大気放射局

2012 年 10 月 1 日

大型ネットワーク機器の製造事業者および他の関係者各位：

米国環境保護庁（EPA）は、大型ネットワーク機器のENERGY STAR®基準の策定に着手している。本取り組みは、潜在的なENERGY STAR製品区分や、米国エネルギー省が主導する試験方法策定の対象範囲を、関係者と協力して判断するという作業から開始される。これらの段階が完了した後、EPAは、大型ネットワーク機器のエネルギー性能データを収集し、ENERGY STAR要件を提案する予定である。

ENERGY STARは、政府、企業、および購入者による任意のパートナーシップであり、環境保護を支援するために、効率性の高い製品の製造、購入、および使用を促すことを目的としている。ENERGY STARを取得している製品は、厳しいエネルギー消費効率指針を満たすことにより、温室効果ガスの排出を抑えている。現在までの状況は以下のとおりである。

- 米国内の家庭の80%以上がENERGY STARラベルを認識している。
- 米国では、2011年に、累計製品数50億に達する60以上もの製品区分にわたって、2億台を超えるENERGY STAR取得製品が購入された。
- 米国では、ENERGY STARを利用することにより、2011年には、自動車4.1千万台分に相当する温室効果ガスの排出を回避するほどの消費エネルギーの削減が行われ、同時に光熱費230億ドルが削減された。

データセンターに消費エネルギー削減の機会があることは十分に裏付けられているが、エネルギー消費の効率化を妨げる障害が未だ残っている。ENERGY STARを通じてEPAは、エネルギー消費効率に優れたコンピュータサーバー、無停電電源装置、およびデータセンター用ストレージなどのIT機器を、購入者がより簡単に特定できるよう支援することによって、これら課題に対処している。

EPAは、入手可能な市場調査を検討し、製造事業者、業界関係者、および本件に関心のある他の関係者による協議を促すことによって、大型ネットワーク機器のENERGY STARプログラム追加を評価する詳細な調査を行った。EPAは、ENERGY STARプログラムを通じて入手可能となる大型ネットワーク機器のエネルギー性能に関する標準化された情報を利用できることは、IT機器の購入者にとって有益であると結論付けた。ネットワーク機器に関連するエネルギー使用量は相当であり、削減の潜在性も期待されている。ある調査では、米国内のネットワーク機器は2008年に18TWhすなわち建物の消費電力量の約1%を使用しており、この消費量は毎年約6%増加して2012年には23TWhになる見込みであると推定されている。

さらに本調査では、オフィスビルのネットワークスイッチと家庭用機器がエネルギー使用量の最も多い2区分であり、それぞれ総エネルギー使用量の40%と30%を占めていることが示されている。これらの調査研究者は、機器の在庫予測や、高効率技術が完全に市場に浸透した場合における20%から50%のエネルギー使用量の範囲を用いて、様々な状況における潜在的な省エネルギーを推定している。¹

大型ネットワーク機器に関するメール配信リストへの追加を希望する場合には、登録希望者の連絡先情報をlargenetwork@energystar.gov宛に送信すること。ENERGY STAR基準策定およびEPAのデータセンターに関する取り組みの最新情報については、www.energystar.gov/datacentersを参照すること。

関係者の参加は、有用な基準の策定およびENERGY STAR全体の成功に不可欠である。具体的な質問については、直接EPAのRJ Meyers (Meyers.Robert@epa.govまたは202-343-9923)、あるいはICF InternationalのJohn Clinger (John.Clinger@icfi.comまたは202-572-9432) に連絡すること。また試験方法に関する具体的な質問については、直接DOEのBryan Berringer (Bryan.Berringer@ee.doe.govまたは202-586-0371) に連絡すること。

ENERGY STAR プログラムへの支援に感謝する。

Sincerely,

Robert Meyers
Product Manager, ENERGY STAR Data Center Products